

## 北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの北海道の地名（第6回）

当社は、白老町において7月12日にオープンを予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

その開館がよいよ近づいてきました。先住民族が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞお楽しみに。

第6回目は、知内発電所です。

### 知内（シリウチ）

北海道新幹線の青函トンネルの入り口がある道南の知内町。農漁業が盛んで、ニラとカキが有名。

ニラは道内の生産量第一位を誇っています。

カキは国内でも珍しく、外海で養殖しており、津軽海峡の荒波にもまれて、味に泥臭さがないと評判のようです。



知内発電所

この知内町に当社石油火力発電所の知内発電所があります。この発電所ができる前は、道南地方の電力の大半は道央・室蘭方面から供給されていましたが、この地方の電力の安定供給を図るために建設を進め、1983（昭和 58）年に1号機が、1998（平成 10）年に2号機が運転を開始しました。いずれも出力は 35 万kWです。

発電の際の燃焼により発生する硫黄酸化物や窒素酸化物などが周辺環境に影響を与えないよう、環境保全対策をしっかりと講じています。

さて、「知内」という地名の由来については、はっきりしたことはわかりませんが、いま知られている解釈は二つあります。ひとつは、シリ・ヲチ（siri-oci 地・越す）。今でも知内のところは矢越岬の海岸沿いを通ることは困難で、山越えをしなければならないことからこう言われたという説ですが、oci に「越す」という意味があったかどうか、よくわかっていないのが実情です。もうひとつは、チリ・オチ（chi-ot-i 鳥・群する・処）という説で、鷹の産地として有名だったからとされており、地元ではこの説が使われています。

（出典：山田秀三「北海道の地名」）